

日語「ただでさえ」的副詞語意和構式 —兼論與「さえ」、「ただ」之對比—

林恒立

北海道大學 博士生

摘要

截至目前為止，多功能詞「ただ」和焦點提示助詞「さえ」的語意和用法一直以來受到日語學界的重視，並經過各種廣泛討論，然而，「ただでさえ」尚無學者提及。「ただでさえ」一詞雖是由「ただ」和「さえ」所組成，但已經成為另一個新詞，不論是語意特徵還是構式特徵皆與原有的不同。例如「ただ」和「さえ」兩者帶單句結構或是複句結構皆可，相對的「ただでさえ」則有以下語意和構式限制。在口語裡，「ただでさえ」出現於複句結構之子句部份作為開頭，呈現[[ただでさえ＋謂語]＋表逆接的接續助詞ノニ、(ノ)ダガ]或是[[ただでさえ＋謂語]＋表順接的接續助詞ノデ、(ノ)ダカラ]之典型構式。在書面語裡，出現「タメ」、「ダケニ」、「ウエ(ニ)」、「ニ加え」、「シ」等口語與書面語兼用的接續助詞，也產生上述接續助詞被省略的現象，呈現[[ただでさえ＋謂語]＋NP]構成連體修飾子句或是[ただでさえ＋謂語]單獨構成(狀似)單句等非典型構式。乍看之下典型構式複句結構「子句－母句」與非典型構式「連體修飾子句(狀似單句)－前後句子(上下文)」表面上構式特徵雖有所不同，但只要是在「ただでさえ」字句裡，「現有的狀態P」和「遞增或遞減的狀態Q」之間的語意對比與搭配關係必定潛在。

關鍵詞：「ただでさえ」、「さえ」、「ただ」、複句、遞增與遞減

受理日期：2013.08.31

通過日期：2013.10.26

Description of Meaning and Usage of the Japanese Adverb
***Tadadesae*:**
With Special Reference to *Sae* and *Tada*

LIN Hengli

Ph.D. student, Hokkaido University

Abstract

Today, the Japanese adverb *tadadesae* has not been discussed in the literature. However, the usage and meaning of its components, *tada* as a multi-functional word and *(de)sae* as a focus particle have long been discussed by many linguists. The aim of this paper is to illustrate certain usage patterns and meaning of *tadadesae*. First of all, *tadadesae* must appear in a subordinate clause followed by a main clause, a syntactic property shared by neither *tada* nor *sae*. In speech, *Tadadesae* requires a contradictory conjunction, such as *noni*, *no-daga*, or a resultative conjunction, such as *node* and *no-dakara* in the subordinate clause. In writing, other conjunctions such as *tame*, *dakeni*, *ue(ni)*, *ni-kuwae*, and *shi* appear, however, *Tadadesae* may also appear in noun-modifying clauses or compound clauses. Finally, in whichever construction it appears, the main clause must express the meaning of “increment/decrement”, a semantic property shared by neither *tada* nor *sae*.

Keywords: *Tadadesae*, *Sae*, *Tada*, *Complex Sentences*, *Increment and Decrement*

「ただでさえ」の副詞的意味と構文 —「さえ」と「ただ」の対照を交えて—

林 恒立

北海道大学大学院 博士後期課程

要旨

これまで、「ただ」と「さえ」の意味・用法については議論されてきているものの、「ただでさえ」についての議論が行われることはほとんどなかった。「ただ」と「さえ」は「ただでさえ」の構成要素であると考えられるが、「ただ」も、「さえ」も、単文と複文の両方に出現可能である。しかし「ただでさえ」は、単文のみでは出現しにくく、基本的に「従属節 — 主節」という複文の構造を要求する。話し言葉の場合、[[ただでさえ＋述語]＋逆接を表す接続の表現ノニ、(ノ)ダガ]や、[[ただでさえ＋述語]＋順接を表す接続の表現ノデ、(ノ)ダカラ]という従属節における典型的な用法が見られた。一方、書き言葉の場合、「ノニ」、「ノダカラ」の代わりに、「タメ」、「ダケニ」、「ウエ(ニ)」、「ニ加エ」、「シ」などの（話し言葉としても使用可能な）接続の表現も見られる。そして、接続の表現が見られず、[[ただでさえ＋述語]＋名詞句]のように連体修飾節の中に起きる用法や、[ただでさえ＋述語]が（擬似または見せかけの）単文として起こる用法が見られた。一見したところでは、従属節における典型的な用法と、そうでない用法とで構文的特徴や振る舞いが異なっているように見えるのだが、「従属節 — 主節」の構造から「連体修飾節や（擬似、見せかけの）単文 — 後続する節や文」へと変わっても、それぞれ、前件の「現在の状態P」と、後件の「更なる状態Q」の組み合わせによる意味的要請が必ず満たされていなければならない。

キーワード：「ただでさえ」、「さえ」、「ただ」、複文、増幅と減幅

「ただでさえ」の副詞的意味と構文 —「さえ」と「ただ」の対照を交えて—

林 恒立

北海道大学大学院 博士後期課程

1. はじめに一なぜ「ただでさえ」なのか

本稿では、現代日本語の「ただでさえ¹」の副詞²としての構文的特徴と意味的特徴を分析し、その用法と意味を記述することを目的とする。

とりたて(助)詞「さえ」と多機能語³「ただ」に関する研究はこれまで、多くなされてきた。しかし、「ただでさえ」に関しては、現在のところ、注目されることもなければ、議論されることもない。

「ただでさえ」は、「ただ」と「さえ」(でさえ)から構成されていると考えられるが、その組み合わせからは予測できない構文的・意味的特徴が観察される。

- (1) a. ただの暑いところ。
b. なんでもないです。ただ暑いだけ。
c. A: 台湾旅行なら、9月がお勧めです。
B: ええ。ただ、台風が心配ですね。
- (2) a. 北海道でさえ 30度以上の真夏日となった。
b. 氷さえあれば夏の炎天下でも走れる。
- (3) a. *ただでさえ暑い。

¹ 「ただでさえ」の同義語に「たださえ」があり、類義語に「ただですら」がある。「さえ」と「すら」の違いについては、沼田(2009: 180-191)では、詳細な議論がなされている。本稿では、現代日本語での「ただでさえ」と「ただですら」を基本的に同じだと見なす。

² 先行研究では、「ただでさえ」に関する記述もなければ、副詞もしくは副用語(渡辺 1983)としての分析や分類も見当たらない。国語辞典では「連語」として扱われる場合もあるが、「ただでさえ」の「副詞」としての意味機能については後述する。

³ 「ただ」は、「無料」と同義の用法(例えば、ただでもらえる、ただ働き)を除いて、主な用法には、名詞修飾・連体修飾の用法(ただ+の+名詞、ただ+数量詞/名詞)、とりたて副詞(安部 2004)としての用法(ただ+述語+だけ)、補足の接続詞としての用法(ただ、ただね、たださ、…)などの用法があるため、多機能語(相葉・佐藤 2008)とされる場合がある。上述の「ただ」の用法の中、「ただでさえ」と意味的に最も類似している用法については3節で後述する。

- b. *今日はただでさえ暑いですね。
- c. ただでさえ暑いんだから、暑いって言ったら、もっと暑くなっちゃうよ。
(あらみけいいち原作、NHK『日常』「ナツい」)
- d. *ただでさえ暑いんだから、海へ行きましょう。
(例文 3c より改変)

例文(1 a, b, c)と(2 a)から分かるように、「ただ」と「さえ」は、単文のみで成立する⁴。一方、「ただでさえ」の場合、(3 c)のように複文の構造で成り立ち、単文のみで言い切りの形だと(3 a, b)のように非文⁵となる。また、意味上、前件の「十分暑い」と後件の「もっと暑い」という組み合わせによる意味的要請が満たされなければならないという特徴が観察される(3 c, d)。本稿では、上記の現象をめぐって議論し、「ただでさえ」の構文的・意味的特徴を明らかにする。

以下、2 節から 4 節まで、「さえ」と「ただ」の先行研究を概観しつつ、「ただでさえ」との類似点と相違点を議論する。5 節と 6 節では、作例だけでなく、コーパスおよびデータベースを通して、「ただでさえ」の実際の用例を調査しその結果に基づいて分析する。7 節では、まとめと今後の課題を提示する。

2. 「さえ」の意味機能

「ただ」に比べ、「さえ」は文(述語)の意味を決めるのにより中心的な役割を果たしている。それだけでなく、他の語と組み合わせて使用する時にも、選択の幅が広く、汎用性があり生産的であるため、本節では、まず「さえ」を取り上げる。

「さえ」は、「取立て助詞」(宮田 1948、1980、寺村 1981、1991)、「とりたて助詞」(澤田 2007、中西 1995、2012)、「とりたて詞」(奥津 1974、沼田 1986、1992、2009)などと、これまで議論されてきた。

⁴ 例文(2 b)は条件節を含むため、複文として見なしたほうが妥当だろう。

⁵ 本稿で言う「非文」は、誤用も含め、日本語ネイティブ・スピーカーの誰もが受け入れられないような文を指す。

以下、「さえ」の議論に特化し総合的考察を長年行ってきた沼田(2009)を代表的な先行研究として取り上げて議論を進める。

沼田(2009)によると、「さえ」には、「意外」の「さえ₁」(例文4 a, b)と、条件節の中にしか現れない「最低条件」の「さえ₂」(例文5 a, b)とがあり、文脈によって「意外」と「最低条件」の二通りの解釈ができる(例文6)⁶。

(4) a. 雑巾さえ満足に縫えない。(意外)

b. 深刻な金融危機を眼前にして、財政・金融の分離問題に
さえまだ最終的な結論を出せないでいる。(意外)

(5) a. これさえあれば、百人力だ。(最低条件)

b. 彼なら、問題点さえわかれば、自分で修正できる。
(最低条件)

(6) 学校に行けさえするなら、喜んで働きます。

(意外もしくは最低条件)

(以上、沼田 2009 : 171-179 より引用)

「ただでさえ」における「さえ」は、沼田(2009)の言う「意外」を表す「さえ₁」と、「最低条件」の「さえ₂」のどちら⁷と見なしたほうが適切だろうか。ここでは、まず、「意外」を表す「さえ₁」と同じものと考えられるか見てみよう。沼田(2009)によると、例文(4 a)は、次のように解釈できる。

(4') a. 雑巾を満足に縫えない。

b. 他のもの一例えを着物—は満足に縫えないが、雑巾

⁶ 例文(6)について、沼田(2009 : 179)によれば、「学校に行けさえするなら、喜んで働く。」だけ見ると、最低条件の「さえ₂」として「他のことはできなくても、学校に行くことができるなら、それだけで喜んで働く。」と解釈することができる。その一方、「住み込みだから食、住の心配はない。それどころか十分な給料がもらえ、その上学校に行けさえするなら、本当に喜んで働きます。」というような文脈に置かれた「さえ」を見ると、意外の「さえ₁」として「他のことならできるかもしれないが、学校に行くことはできないと思っていた。その学校に行くことができるなら、喜んで働く。」と解釈することができる。したがって、例文(6)の「さえ」が文脈によって2通りの解釈ができ、「さえ₂」を「さえ₁」が条件節内に現れた場合に得られる語用論的解釈のひとつと考えることができないという。

⁷ 「意外」と「最低条件」の他にも、「さえ」は他の意味機能を表す場合もあるが、本稿では沼田(2009)の分析に準ずる。

は満足に縫えると思った。

(以上、沼田 2009 : 173)

「満足に縫えない」という想定⁸はあるものの、結局、(着物よりも遥かに簡単な)雑巾さえ満足に縫えなかった。意外なのは「雑巾」であって、「満足に縫えない」という想定ではない。このように、「さえ」にとりたてられている前の成分(雑巾)が意外の意味を持ち、後半の成分(縫えなかった)はとりたてや意外の意味と関係がない。

「ただでさえ」の場合、従来の国語辞典における「連語」の分類として、前の成分(つまり、「ただ」)が「さえ」または「でさえ⁹」にとりたてられているという見方をするならば、例文(4 a)の雑巾と同じく、「ただ」にも意外の意味を持つはずである。しかし、例えば次の例文では、意外の意味は含まれていない。

(7) a. ただでさえ暑いんだから、暑いって言ったら、もっと暑くなっちゃうよ。(例文3c再掲)

b. まずい! 壊しちゃった! お母さんに怒られる。ただでさえ今日は何度も怒られてるのに!

(さくらももこ原作、アニメ『ちびまる子ちゃん』#918)

例文(7 a, b)を見る限りでは、「ただでさえ」自体は、意外の意味を持たない。「ただでさえ」は、前件の「暑い」や「怒られる」などの「既定的」な事実と、後件の「もっと暑くなる」や「もっと怒られる」などの予測や見越し(渡辺 1980)の内容の命題を要求しているため、文全体においても「意外性」と相容れない。

例文(8 a, b)も、主節に「とは」や「なんて」などの表現があるものの、「ただでさえ」そのものに意外の意味は含まれていない。

(8) a. ただでさえ寒いのに、北向きの部屋を借りるとはたいした勇気だ。

b. ただでさえ心が折れかけてるのに、蒸発した母親が

⁸ 「想定」について、沼田によれば、「期待」や「予想」としたのもあったが、沼田(2009)では厳密な定義があり、「ある事柄に対して、話し手がそれを真または偽として断定するもの(p. 41)」を「断定」と呼び、「しかし、とりたて詞の表す意味には、真偽を断定せず、話し手や聞き手の『自者』・『他者』に対する『想定』を表すものがある(p. 41-42)」としている。なお、「自者」とは、「とりたて詞がとりたてる文中の要素(p. 37)」であり、「他者」は、「それに端的に対比される『自者』以外の要素(p. 37)」である。

⁹ 「ただでさえ」は「たださえ」と同じ意味として使われているため、「で」の有無はそれほど問題にはならない。

東京で、しかも男と一緒にだなんて聞いたら、完全に折れるよ。(宮藤官九郎脚本、NHK『あまちゃん』第 87 回)

次に、「最低条件」を表す「さえ₂」について見てみよう。

- (9) a. 問題点さえわかれば、自分で修正できる。
b. *ただでさえ問題点がわかれば、自分で修正できる。
c. *問題点がただでさえわかれば、自分で修正できる。
(以上、例文 5b および 9a より改変)

例文(9b, c)が示すように、「ただでさえ」は(複文の)条件節の中には現れない。前述の通り、「ただでさえ」は「(既定的な)事実」を述べたり、評価したりする際に用いられるので、「既定的事実」を条件節の中に入れると意味的に矛盾するためである。この観察は、「ただでさえ」の「さえ₂」とは意味的特徴も構文的特徴も異なることを明確に示している。

このように、「ただでさえ」は、「さえ₁」や「さえ₂」とは異なり、意味的特徴については、「ただでさえ」そのものは「意外」を表しておらず、また、「最低条件」の意味を表すこともできない。構文的特徴については、「さえ₁」は単文に現れ、「さえ₂」は(複文の)条件節に現れる。それに対し、「ただでさえ」は基本的に複文の従属節に現れるが¹⁰、(複文の)条件節には現れない。以上の考察から、「ただでさえ」は「さえ」の本来の意味的特徴や構文的特徴を失って、新たな表現として他の意味機能を有していることが明らかになった。

3. 「ただ」の意味機能

「ただ」は、その意味・用法の違いによって、先行研究での着眼点も分析も異なっている。大別すると、一般的に見られる名詞修飾・連体修飾の要素としての「ただ₁」(例文 10a)、「限定副詞」(工藤 1977)、「とりたて副詞」(安部 2003、2004)としての「ただ₂」(例文 10b)、「接続詞的用法」(森田 1989、川越 2006)としての「ただ₃」

¹⁰ 「ただでさえ」は、時には、「擬似」(見せかけ)の単文に現れる場合がある。これは、複文の「従属節 — 主節」の複文の構造を持たないものの、関係節として埋め込み文を含んだ文である。しかし、この文に現れる場合も、二つの文の間に対照的意味関係が含まれなければならない。詳しくは 6.2 (例文 45, 46)で後述する。

(例文 10c)が挙げられる。

- (10) a. ただの暑いところ。 (例文 1a 再掲)
b. なんでもないです。ただ暑いだけ。 (例文 1b 再掲)
c. A : 台湾旅行なら 9 月がちょうどいい。
B : ええ。ただ、台風が心配ですね。 (例文 1c 再掲)

では、上記の三種類の「ただ」のうち、どれが「ただでさえ」の一部となっているのだろうか。2 節で議論したように、もし前の成分(「ただ」)が「さえ」または「でさえ」にとりたてられているという見方をするならば、「とりたての対象」を見る必要がある。寺村(1981 : 64)の「提題¹¹」の「取立て詞」というカテゴリーで「さえ」を見ると、「さえ」がとりたてる(とりあげる)対象は、「名詞」である(例文 11)。また、奥津(1974 : 52)によると、「とりたて詞」には、「名詞あるいは副詞を、他の名詞あるいは副詞に対して、他を排してそのみをとりにたてる場合や、それも他と同様であるとしてとりたてる場合や、またごく一般的にとりたての「は」などがある」というように、とりたての対象には「名詞あるいは副詞」とある。しかしながら、「さえ」に関してのみ言えば、実際には、例えば「怒るどころか、喜びさえした」(動詞)、「雄々しく美しくさえ見える」(形容詞)、「ドキドキさえした」(副詞・擬態語)など¹²、バリエーションが見られる。上記はいずれも実質的意味を持つ内容語である。実質の意味を持たない副詞(機能語)は、ほとんどの場合「さえ」によるとりたてを受けることはない(例文 12, 13, 14b)。

(11) 記念日(で)さえ忘れている。

(12) *単に(で)さえ忘れている。

(13) (記念日を){*完全に／*すっかり}(で)さえ忘れている。

¹¹ 寺村(1981 : 64)によれば、「取立て助詞」には「提題」と「評価」という二種類がある。「提題」は「色々な格にあたる名詞を取りあげ、それを文全体の題目とすることを主な職能とするもの」であり、「評価」は「文中の補語を、補語として、あるいはその中心の名詞を、取り出して、何かと対比させる役割のみを託されているもの」である。

¹² 査読委員によるご指摘と例文提供である。御礼申し上げます。

(14) a. これさえあれば、百人力だ。 (例文 5 a 再掲)

b. *単にさえあれば、百人力だ。 (例文 5 a より改変)

「ただ」の場合、内容語と機能語両方の性質を持っているので、機能語としての性質をいきなり排除し、内容語(名詞)だと認定するという方法も可能だが、ここでは、一度比較対照の作業を行う。

「ただでさえ」が「ただ+でさえ」、「ただで+さえ」、ないしは「ただ+で+さえ」によって構成されている可能性を考えると、三種類の「ただ」の用法のうち、とりたて副詞としての「ただ₂」と「接続詞的用法」としての「ただ₃」は、いずれも機能語であるため、例文(12)(14b)が示している通り「さえ」には付かない。よって、「ただでさえ」は、「ただ」は名詞修飾・連体修飾用法としての「ただ₁」と「さえ」から構成されているとしか考えられない。

しかしながら、「ただでさえ」は、「連用修飾」の機能しか持っていない。「さえ」はそれが付いた表現の統語的性質を変えることはできないという事実からも、「ただでさえ」が「ただ」と「さえ」によって構成された単なる「連語」ではない。

したがって、「ただでさえ¹³」は「ただ」に「でさえ」が付加された(もしくは、逆に、「でさえ」に「ただ」が付加された)連語であるというより、一語化されて、全体として連用修飾の機能を持つひとつの副詞になっていると考えられる。

ここまで見てきたように、「ただ」、「さえ」、そして「ただでさえ」は、形態的に類似していても、それぞれ意味的特徴も構文的特徴も異なっている。すなわち、「ただでさえ」には、「ただ」と「さえ」本来の意味機能を失い、その組み合わせからは予測できない構文的・意味的特徴が存在している。

4. 「ただでさえ」について

4.1 「ただでさえ」の辞書における記述

¹³ 「ただでさえ」の同義語である「たださえ」に関しても、同じである。

先行研究を調べた限りでは、「ただでさえ」に特化した議論は見当たらない。そのため、日本語文型辞典(グループ・ジャマシイ 1998)における定義と例文を用いてその基本的な意味と用法を概観する¹⁴。同辞典(1998: 195)による意味の記述では、「『普段の場合でも』の意で、普段でもそうなのに、普通でない状態の時はもっとそうだということを述べるのに使う」としている。構文的特徴についての言及や記述はないものの、同辞典における例文(15)(16)を観察すると、「ただでさえ」は、「従属節 — 主節」という複文の構造を持つ文で用いられるという構文的特徴を持つことが明確に示されている。

(15) お父さんはただでさえうるさいのだから、病気にでもなったらああしろ、こうしろと大変だろうね。

(16) ただでさえ人手がたりなくて困っているのに、こんな小さな会社で一度に三人もやめられたらどうしようもない。
(グループ・ジャマシイ 1998: 195、例文番号と下線は筆者による)

また、前件の「普段の場合でも」と後件の「普通でない状態の時はもっと」という意味的対応関係があることも明らかである。

同辞典における「普段(の場合でも)」は、あくまで、説明として「ただでさえ」の意味の理解を助けるために学習者向けに用いられた最も意味の近い表現の例のひとつである。「ただでさえ」は必ずしも常に「普段」の状況を述べる時に用いられるとは限らず、当日のこと(例文 17a)や、その場に起きていること(18)にも使われる。

(17) まずい！壊しちゃった！お母さんに怒られる。

ただでさえ今日は何度も怒られてるのに！(例文 7b 再掲)

(18) ただでさえ疲れているのに、走ってこい！なんて。

例文(15)の「お父さんはうるさい」や、例文(16)の「小さな会社で人手が足りない」は、それぞれ「お父さん」や「小さな会社」の「属性」である。したがって「普段」という表現と入れ替えて意味を考えることが可能である。一方、「(今日は何度も)怒られて(い)る」や「疲れている」は、それぞれ「属性」ではなく「状態性」であり、「一時期もしくは一時的な出来事や状況」であるため、「普段

¹⁴ この他にも、日本語を学ぶ人の辞典(にほんごの会 2011)があり、「ふつうの状態でもそうであるのに(p. 553)」と説明している。例文「急いで書いたら、ただでさえ下手な字がますますきたなくなった」。この種の構造の文については、6.2 で後述する。

の場合でも」、「普段から」だけでは説明しきれない何か(すなわち、「ただでさえ」独自の意味)を表している¹⁵。蓮沼(1987)は、「日本語の副詞の中には、外国語に翻訳しようとしても、対応する表現が見つけないばかりでなく、日本語の類義表現による言い換えによっても、そのニュアンスを正確に表わしえないような、複雑な用法をもつ一群があ(p. 203)」と指摘している。おそらく「ただでさえ」もその独特で複雑な用法を持っている副詞のひとつだろう。

「ただでさえ」の言い換えや類義表現よりも重要なのは、「ただでさえ」を含む文の文法性の要件になっている前件の「うるさい／困る」(例文 15, 16)、「怒られる／疲れる」(例文 17, 18)と後件の「もっとうるさい／もっと困る」、「もっと怒られる／もっと疲れる」といった意味的対応関係の組み合わせがあることである。それも単なる因果関係ではなくて(例文 19b)、「現在の状態 P」(前件)と「更なる状態 Q」(後件)との組み合わせによる対照的關係があつてはじめて成り立つもののようである(例文 19c, d)。

- (19) a. 部屋が狭い{から/ので}、くつろげなかった。
 b. ??ただでさえ部屋が狭い{から/ので}、くつろげなかった。
 c. ただでさえ部屋が狭いのに、荷物にスペースをさらにとられてしまい、くつろげなかった。
 d. ただでさえ部屋が狭いのだから、荷物をこれ以上増やしたくないのだ。

4.2 「ただでさえ」と従属節における述語の意味的制限

従属節の述語の部分を観察すると、「ただでさえ」の直後に、形容詞(例文 20a, b)、「形容詞＋名詞」(20c, d)、もしくは「形容詞の

¹⁵ その他、「ただでさえ」の意味に近い表現として、「そのままでも」などの表現もあるが、構文的特徴からすると、そもそも「普段の場合でも」や「そのままでも」などは単文に現れ、また、「連語」として扱うことができる。それに対し、「ただでさえ」は、基本的に(複文の)従属節に現れなければならない、「連語」であるというより、実際には、より多くの場合、むしろ一語化された「副詞」としての意味機能を果たしている。

成分を有する名詞」¹⁶ (20e-i)が後続する。

- (20) a. 身体をちょっとでも動かすようにと先生が注意されると、「ただでさえ痛いのに、動かす気分にはなれません」とほとんどの方がおっしゃいます。
(読売新聞 2013. 6. 4)
- b. ただでさえフラフラなのに、山のような書類を提出しなければならない。しかも、難病を抱える患者にとっては余りにも過酷な制度で、「大我慢大会」を強いられる。
(朝日新聞 2011. 7. 12)
- c. ただでさえ厳しい経済状況なのに、これ以上の増税は景気を悪化させるだけだ。
(朝日新聞 2010. 7. 5)
- d. ようやく任も果てたので、その明けがた京へ上ろうかと思って、お暇乞に参上いたしますと、ただでさえいつも神々しいような御所でしたが、その折は又円融院の御世からお仕えしているとか云う、いかにも神さびた老女が居合わせて、昔の事などなつかしように物語り出し、しまいにはよく調べた琵琶までも聞かせてくれました。
(堀辰雄「姨捨」)
- e. ただでさえハイリスクなのに。ぶくぶく太っている場合じゃない。おまけに出産は富士山を登るぐらいのエネルギーに相当するという。
(朝日新聞 2011. 3. 7)
- f. ただでさえドライアイなのにコンタクトを装着するとますますドライアイになるのではないかと
「ワンデーアキュビュー・トゥルーアイについて」
- g. ただでさえ赤字なのに、更に値下がりがしないか心配だ。
(朝日新聞 2012. 1. 6)
- h. 「この時期は秋冬物と春物の端境期でただでさえ品薄。今年はその春物の生育が遅れている」という。
(朝日新聞 2010. 4. 23)
- i. ただでさえ日本は奇跡的勝利の連続だったのだから、今度こそライオンに喰われてしまうウサギさんたちを見せつけられるのではないかと、ヒヤヒヤしていました。
(読売新聞 2011. 7. 22)

例文(20a)は形容詞(い形容詞)であり、(20b)も形容詞(な形容詞、擬態語)である。(20c, d)は「形容詞と名詞」の組み合わせであり、それぞれ現在の「状態」がはっきりしている。(20e-i)の下線部は、一見したところ名詞なのだが、「ハイリスク」や「ドライアイ」は、それぞれ「高いリスク」・「リスクが高い」や「乾燥した目」・「目が乾燥している」と同じ意味であり、「赤字」や「品薄」、「奇跡的勝利

¹⁶ 「形容詞＋名詞」など、連体修飾節に関連している議論は、6.2で行う。

の連続」も、「厳しい財政状況・経済的に厳しい」や「農作物・農産物が足りない」、「奇跡的に勝利が続いている」と意味的に同じような状態を表している。

「形容詞」、「形容詞の成分を有する名詞」の他、状態を表す動詞(例文 21a-d) も後続する。

- (21) a. ただでさえ緊張するのに、春の選抜大会の優勝校・興南を見ようと約3万6千人も観客がいた。
(朝日新聞 2010. 8. 12)
- b. ただでさえ減っていたのに、この不況でさらに悪くなっている。
(朝日新聞 2011. 10. 11)
- c. ただでさえ乾燥しやすいのに、入浴時にタオルで体をゴシゴシこすると、皮脂や角質がはげ落ちてしまう。
(読売新聞 2007. 11. 15)
- d. 1970 年から市内で「ささもと書店」を経営する笹本近男さん(72)は、「ただでさえここ数年、売り上げは下がりっぱなしなのに……」と声を落とす。
(朝日新聞 2012. 11. 8)

例文(21a-d)のいずれも動詞だが、「状態」がはっきりしている。

ところが、形容詞との組み合わせがなく、状態がはっきりしない単独の名詞や、単に動作を表す動詞(特に、一回性の出来事。以下、動作動詞)のみが後続すると、文法的に不自然な文となる。

例文(22a, c)のように「厚い本」や「ガリガリの体」は、いずれも状態がはっきりしている。しかし、(22b, d)のように修飾成分を取り外すと、名詞だけでは、「本」や「体」が今どのような状態なのかははっきりしない。「厚い—さらに分厚い」、「ガリガリ—もっと痩せっぽち」といった意味的対応関係を見出せなければ非文となる。

- (22) a. ただでさえ厚い本なのに、しおりやメモなどいろいろ挟んで、さらに分厚くなった。
- b. *ただでさえ本なのに、さらに分厚くなった。
- c. ただでさえガリガリの体だから、もっと痩せっぽちになるよ。だからちゃんと食べなさい。
- d. *ただでさえ体だから、もっと痩せっぽちになるよ。だからちゃんと食べなさい。

次に、動作の状態がはっきりしない場合、とりわけ動作動詞のみだと、その動作(例えば、例文 23a の「食べる」)が今どのような状態なのか、はっきりしない。たとえ「食べる」—「もっと食べる」

という意味的対応関係があっても、文法的に不自然である。

文法性を高くしていくためには、例えば、副詞と「ている形」の組み合わせ(23c)、複合動詞(一過ぎる)との併用(23d)、「可能形」との組み合わせ(23e)など、状態を明確に表す必要がある。

- (23) a. *ただでさえ食べるのに、さらに食べた。
b. ?ただでさえいろいろ食べるのに、さらにたくさん食べてしまった。
c. ただでさえたくさん食べているのに、二次会、三次会など、さらにいっぱい食べてしまった。
d. ただでさえ食べ過ぎだったのに昨日も食べ過ぎてマスターの胃とお腹の脂肪は大変なことに。
「こじやれた食堂 <http://threepoint.shimanavi.net/e75178.html>」
e. ただでさえ食べる気になれないのに、作り方を見ると、完全に食べる気を失った。

このように、「ただでさえ」は状態性と深く関わっており、上記はあくまで「食べる」という動詞の一例だが、従属節の述語は、状態を表す形容詞、名詞である必要があり、動詞の場合、単に動作ではなく、状態の説明がなければならないという意味的制限がある。

ここまで、「ただでさえ」の持つ(1)「従属節 — 主節」の複文の構造、(2)「現在の状態P — 更なる状態Q」の意味的対応関係の組み合わせ、(3)「状態性」と深い関わりという三つの特徴ないし制約を見てきた。「のに」や「(の)だから」以外の接続助詞との共起の例や、例外があるのかどうかも含めて、次節でこれらの問題に関わる考察を加える。

5 用例調査

5.1 意図と方法

「ただでさえ」の構文的・意味的特徴は、これまでの議論を踏まえてある程度確認できた。しかし、コーパスおよびデータベースを調査すると、例えば下記のような「のだから／のに」と共起しない例が大量に見つかる(例文 24, 25)。

- (24) ただでさえ栄養豊富な納豆に、コラーゲンが加わることで、どこまで健康的な食品になるんだろうか。

(エキサイトニュース 2005. 11. 28)

- (25) ただでさえ日本にいれば、宇宙などから年間平均 1.48
ミリシーベルトの放射線を浴びる。世界平均は 2.4 ミリ
シーベルトだ。(朝日新聞 2012.6.6)

上記のような事例は、例外なのか、それとも、一般的に見られる用法なのか。これまで見てきた特徴ないし制約に矛盾するのか。

本稿で使用するコーパスおよびデータベースには、主に話し言葉を扱うものと書き言葉を扱うものがある。話し言葉の調査では、現代日本語研究会編(1997)『女性のことば・職場編』(ひつじ書房)、同研究会編(2002)『男性のことば・職場編』(ひつじ書房)における自然会話を書き起こしたデータと、「茶漉¹⁷」における「名大会話コーパス」の雑談の文字化データを使用する。書き言葉の調査では、日本語用例検索(青空文庫所収文学作品¹⁸)と、「聞蔵Ⅱビジュアル朝日新聞有料記事・写真検索」がある。なお、上記のコーパスとデータベースに収録されていない用例も補助の用例として使用する。

5.2 結果：コーパスおよびデータベースを通して見えてきたこと

現代日本語研究会編(1997)『女性のことば・職場編』、同研究会編(2002)『男性のことば・職場編』では、データにおける形態素の書き分け¹⁹を考慮し、「さえ」を手がかりに調べた結果、『女性のことば・職場編』では、「ただでさえ」に該当する例は見つからず、『男性のことば・職場編』でも、僅か 1 例しか見つからなかった。その 1 例は「のに」と共起している。

一方、「茶漉」の「名大会話コーパス」では、同じく「さえ」を手がかりに検索した結果、「さえ」が 63 例ヒットした。そのうち、「ただでさえ」に該当する例は、5 例しか見つからなかった。うち 4 例は「のに」と共起している。残り 1 例は「けど」と共起している。

¹⁷ 「茶漉」日本語用例・コロケーション抽出システム(一般公開版)。

¹⁸ 田野村忠温氏のウェブサイト。

¹⁹ 『男性のことば・職場編』では、「ただでさえ」を一語として文字化されているが、『茶漉』の「名大会話コーパス」では、コロケーション検索システムでもあるため、「ただ／で／さえ」と書き分けられている。

日本語用例検索(青空文庫所収文学作品)では、「さえ」は 500 件以上見つかったのに対し、「ただでさえ」は 30 件見つかった。なお、30 件のうち、僅か 2 例のみ「(の)だから」と共起している。「のに」と共起する例は見つからなかったが、同じく逆接を表す「が」が 4 例見つかった。上記以外の 24 例は一見したところでは単文(の羅列)になっている。最後に、新聞記事の数は、日々変動していて流動的であるため、一定の期間を設定し調査を行った²⁰。その結果、これまで見てきた接続助詞「のに」と「(の)だから」などと共起する例よりも、共起しない例や、長文、特殊な文の中に埋め込まれている例が圧倒的に多かった²¹。

表 1 用例調査結果

	接続助詞									長文、 特殊 な文 など その 他 iii	ヒッ ト 数
	逆接		順接（原因・理由）				累加				
コーパ ス、 データ ベース	のに i	が・ けど	のだ から	から ので	ため	だけ に	上 (に) ii	に 加え	し		
女性のことば	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男性のことば	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
茶漉	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
青空文庫	0	1	2	0	0	0	3	0	0	24	30
朝日新聞	733	53	24	55	23	38	93	18	8	2,528	3,573
小計	738	55	26	55	23	38	96	18	8	2,552	3,609

i 朝日新聞「のに」733 件のうち、「だるうに」2 件、「でしように」1 件、「(の)にもかかわらず」1 件を含む。なお、「のに」は、取材やインタビューなどの会話文・引用文で出現することが多い。

ii 「そのうえ」22 件、「このうえ」1 件を含む。

²⁰ 朝日新聞記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」の「朝日新聞 1985～」で調査を行なったところ、1984 年 8 月 9 日から 2013 年 6 月 12 日までの総件数は 3,573 件。なお、件数は日々変動している。

²¹ この点については、田野村(2004)で指摘されている「言語資料の性格」の問題であり、文学作品、ジャーナリズム言語としての独特の書き方であると考えられる。

- iii 主に[[ただでさえ+述語]+名詞句]のように連体修飾節の中に起こる用法や[ただでさえ+述語]が(擬似、見せかけの)単文として起こる用法が大量に観察された。中でも、長文や特殊な文も数多く観察されたが、いずれも前後の段落との関わっているため、今回は「その他」に分類する。

上記の用例調査結果は、作例と辞書だけでは見つけられなかった特徴も含んでいる。これらの特徴は次のように整理できる²²。

第一に、話し言葉、口語で多用され、「従属節 — 主節」の構造をとり、従属節末に接続の表現と共に起る用法が<典型的な用法>であると考えられるということである。どういう根拠で「典型的」と言えるのか。一つの方法は、ネイティブスピーカーが発話する際に、もしくは例文を作る際に、真っ先に思い浮かべる例を「典型的」とすることである。グループ・ジャマシイ(1998)の例文の複文の構造も、その反映の一つだろう。

第二に、書き言葉、文章で多用され、本来、従属節末に共に起るはずの接続の表現を伴わない長文、あるいは特殊な文に見られる用法があることである。これを<非典型的な用法>と呼ぶ。

<典型的な用法>

用法(1)[ただでさえ+述語]+逆接を表す接続の表現ノニ、(ノ)ダガ]という従属節における用法(例文 26a-d)。

用法(2)[[ただでさえ+述語]+順接を表す接続の表現ノデ、(ノ)ダカラ²³]という従属節における用法(例文 27a-c)。

用法(3) 用法(1)(2)の発展形であり、原因・理由を表す接続助詞タメ、ダケニ、累加を表す接続助詞ニ加エ、ウエ(ニ)、シと共に起している用法(例文 28a-e)。

<非典型的な用法>

用法(4)[[ただでさえ+述語]+名詞句]のように連体修飾節の中に起る用法²⁴(例文 29a-c)。

²² 用法(1)の「のに」は、話し言葉(自然会話)と書き言葉(会話文)両方観察された用法であり、「のだが」と用法(2)の「ので」、「(の)だから」は自然会話コーパスには観察されなかったが、書き言葉(会話文)には観察された。用法(3)は書き言葉(文章)にのみ観察された。

²³ 非難のニュアンス(蓮沼他 2001)を帯びる「ノダカラ」と違い、「ノ」を用いない「ただでさえ…から」の用例は、「ただでさえ…のだから」から派生した用例であり、ニュアンスを和らげたものであると考えられる。

²⁴ 渡辺(1987)と蓮沼(1987)では、「せっかく」を例に、「のに」や「のだから」が省略され、i「せっかく連体句+N+助詞Q」、ii「せっかくのN+助詞Q」、iii「せっかくだ/ですからQ」、iv「せっかくだ/ですが・けれどもQ」(蓮沼 1987: 211)という四種類の圧縮用法があるとしている。「せっかくのN+助

用法(5) [ただでさえ+述語] が(擬似、見せかけの)単文として起る用法(例文 30a, b)。

- (26) a. からいとただでさえ熱いのに熱くなっちゃって。
(「名大会話コーパス」)
- b. 「期間中は落ち着かないので、友達といられるのは心強い」と喜ぶ生徒もいるが、「ただでさえ緊張しているのに、寢床が変われば余計眠れないのでは」と心配する生徒も。
(朝日新聞 2005. 11. 23)
- c. ただでさえ幸福の青い鳥が見られて幸せでしたが、4羽のひなたちが無事に巣立つのを見て、さらに幸せな気分になりました。
(朝日新聞 2012. 6. 20)
- d. 宝塚歌劇の代名詞とも言える名作の登板にただでさえ注目が集まっているが、さらに今回は壮一帆、愛加あゆの新トップコンビお披露目でもあり、話題性は抜群。
(朝日新聞 2013. 3. 6)
- (27) a. ただでさえ制度改革が繰り返されたので、来年また制度が変わることについて、現場の反発や混乱は必至だ。
(朝日新聞 2012. 2. 20)
- b. 夫所^{それどころ}ぢゃない、彼の男は唯^{ただ}でさへ^あ随分会^{にく}ひ悪い方^{ほう}なん
だから、そんな事^{むやみ}を無暗^{すぐ}に喋べらうものなら、直帰^くつて呉^{かね}れ位云ひ兼ねないですよ。
(夏目漱石「彼岸過迄(報告)」)
- c. 経営者の山野内ミツルさん(81)は「都城大丸の休業でただでさえ閑散としているから、しっかり営業していると分かるようにしないと」。(朝日新聞 2011. 2. 2)
- (28) a. これらの債券はただでさえ流動性が低いため、市場の緊張が高まる局面では買い手が引っ込む。ただ、良い側面もある。
(朝日新聞 2013. 6. 12)
- b. ただでさえ、さまざまな自治体が視察に訪れる武雄市だけに、この図書館はひとつのモデルになっていく可能性があり、引き続き注視したい。
(朝日新聞 2012. 12. 10)
- c. 僕はただでさえ不愉快な上に、年寄にすまないという苦痛をもう一つ重ねた。
(夏目漱石「彼岸過迄」)
- d. ただでさえ目の前の利用者さんに専念しづらい状況なのに加えて、朦朧として注意散漫になっている。
(朝日新聞 2013. 5. 29)
- e. 鳥インフルエンザ騒動はここ一カ月、新たな発生がなく、沈静化している。しかし、卵はただでさえ値段が下がっているし、売れない。
(朝日新聞 2004. 4. 11)

詞 Q」を除き、「ただでさえ」にも同じような用法(本稿では、非典型的な用法)が観察された。

- (29) a. ただでさえ難しい障害者の雇用に、県内の厳しい情勢がのしかかる。
(朝日新聞 2012. 2. 14)
- b. ただでさえ就職難の若者たちを窮地に追いやるだけだ。
(朝日新聞 2012. 5. 25)
- c. 狭い横町にあるだけに、セントルイスの店なかは、ただでさえ早い秋の暮色が、はやひっそりと、しかし何かあわただしく忍び込んでいた。
(織田作之助「土曜夫人」)
- (30) a. ただでさえ日本にいれば、宇宙などから年間平均 1.48 ミリシーベルトの放射線を浴びる。世界平均は 2.4 ミリシーベルトだ。
(朝日新聞 2012. 6. 6、例文 25 再掲)
- b. 男性は「ただでさえ、牛乳の消費量は年々減っている。風評被害を長引かせないためにも、政府は安全性をもっと強調してほしい」と願う。
(朝日新聞 2011. 3. 22)

用法(1)(2)(3)は、主に自然会話、雑談、小説・文学作品(会話文)および新聞記事(被取材者の発話の引用、インタビュー記事など)に見られる。用法(4)(5)は、主に小説・文学作品(地の文)および新聞記事(社説など)に見られるものである。なお、話し言葉と書き言葉の併用・混用の例も少なくないため、次節では、一旦ジャンルを超えて、構文的特徴の違いの観点から、まず用法(1)(2)の例文を見てから、用法(3)と用法(4)(5)での現象に注目しその異同を分析する。

6 考察

6.1 従属節末における接続助詞との共起

前述の通り、なお、作例と辞書からも見てきたが、「ただでさえ」は、複文の従属節において、逆接を表す「のに」(例文 31)や「けど」(例文 32)、順接を表す「(の)だから」(例文 33a, b)と共起している。これはコーパスの中にも観察される。3,609 件の用例の中、「のに」が 738 件(20.45%)であるのに対し、「(の)だから」は 55 件(1.52%)しかない。「ただでさえ」が「のに」と共起しやすいのは何か理由はあるのだろうか。

- (31) からいとただでさえ熱いのに熱くなっちゃって。
- (32) 雨ふってきたら、ほら、ただでさえいないけど余計いないじゃん。
(以上、「名大会話コーパス」)
- (33) a. ただでさえ暑いんだから、暑いって言ったら、もっと

暑くなっちゃうよ。(例文 3c 再掲)

- b. 「これを御覧、とても読む勇気がないね。ただでさえ判明らないところへ持って来て、むやみに朱を入れたり棒を引いたりしてあるんだから」(夏目漱石「道草」)

「のに」や「(の)だから」などの接続助詞は、従属節と主節を繋げるだけでなく、前件の「現在の状態 P」と後件の「更なる状態 Q」(後件)との間の対照的關係を際立たせる。しかし、「現在の状態 P」を上回る場合はさらに一段と上回り(増幅, increment)、下回る場合はさらに一段と下回る(減幅, decrement)という「更なる状態 Q」への変化は、必ずしも話者にとって望ましい・好ましいとは限らないので、「ただでさえ」が往々にしてマイナスな状況を述べる時に用いられるのもこのためだろう。

その裏付けの一つとして、「のに」の代わりに従属節末に現れる「だけに²⁵」を、「当該の事態を積極的に評価する(プラスに評価する)」という意味特性(益岡 2010)を持つ「だけあって」で言い換えることができず(例文 34a, b)、「だけに」がプラス評価に用いられる場合でも、「だけあって」で言い換えにくい(例文 34c)。

- (34) a. 旧大槌小の校舎を改築して月に移転した役場の新庁舎はクーラーがあり、ただでさえ町民から「我々は仮設なのに、なぜ役場を最初に建てた」と苦言を呈されていた{だけに / *だけあって}、これ以上批判を受けたくないのが本音のようだ。(朝日新聞 2012. 9. 8)
- b. 61 年ごろこつぜんと表舞台から姿を消した諏訪の演奏記録はただでさえ少ない {だけに / *だけあって}、音楽評論家の萩谷由喜子さんは「欧州で彼女がどんな演奏をして称賛を浴びたのかをしのばせる、意味のある音源だ」と話す。(朝日新聞 2013. 6. 9)
- c. ただでさえ、さまざまな自治体が視察に訪れる武雄市 {だけに / ??だけあって}、この図書館はひとつのモデルになっていく可能性があり、引き続き注視したい。

²⁵ 前田(2009: 153-157)では、「A だけに B」は、「A 以外と比べて、A は A である分、その分だけ、一層・より(〜だ)」という意味を表し、「A が理由になっていることによって、A 以外の場合に比べてより B である」という意味を表している。また、原因理由文としての「だけに」にとってもう一つ重要なのは、後件の「比較による程度性」という点であり、例えば「一生懸命勉強しただけに、{*合格した。/ 成績は非常に良かった。}」という意味的制限から、B には「程度性」を持つ内容が来なければならず、「(比較による)程度性のある事態が要求されることが、『だけに』の必須条件である」と分析している。

(朝日新聞 2012. 12. 10、例文 28b 再掲)

「だけに」の後件に「現実界の事態のほか、話し手の感情、評価等がくる(中畠 1995: 530)」のに対し、「だけあって」の後件には「好ましい事態がくることから、ダケニのようにマイナス評価を示すことができない(中畠 1995: 530)」。「だけに」の「話し手の感情、評価」を表すという特徴と、後件に「(比較による)程度性」(前田 2009)を持つ内容が来なければならないという意味的制約が要求されている特徴が、「ただでさえ」が表す意味と後件に「更なる状態 Q」でなければならないという意味的制限に類似している。そのため、「ただでさえ」は「だけに」と共起しやすい。

次に、従属節において、「ただでさえ」が「添加」を表す「上(に)」(例文 35a, b, c)、「(状況、ところ)に加えて」(例文 36a, b)、あるいは累加を表す「し」(例文 37)と共起している例も見られた。これは、「ただでさえ」の「更なる状態 Q(後件)」の意味と関わっている。

(35) a. 僕はただでさえ不愉快な上に、年寄にすまないという苦痛をもう一つ重ねた。

(夏目漱石「彼岸過迄」、例文 28c 再掲)

b. ただでさえ寂しい思いをしていた上に、だめ押しともいえる年賀状が来なかった新年の寂しさは、今も忘れることができない。

(朝日新聞 2012. 11. 29)

c. ただでさえ理科総合 A の問題を解く機会が少ないうえに、センター試験は独特の出題形式です。

(朝日新聞 2012. 1. 15)

(36) a. ただでさえ目の前の利用者さんに専念しづらい状況なのに加えて、朦朧として注意散漫になっている。

(朝日新聞 2013. 5. 29、例文 28d 再掲)

b. 農家ってただでさえありえないくらいのジェネラリストなところに加えて、それでは労働時間もすごく長くなってしまう。

(朝日新聞 2013. 4. 5)

(37) 卵はただでさえ値段が下がっているし、売れない。

(朝日新聞 2004. 4. 11、例文 27e 再掲)

「上に」、「に加えて」、「し」の例は、いずれも「更なる状態 Q(後件)」の意味が、形式に反映したものであると考えられる。特に、例文(36a, b)の「…状況なのに加えて」、「…ところに加えて」を見ると、「現在の状態 P」に何か加わり、「更なる状態 Q」へと増幅している意味がはっきりしている。上記の例文(35a, b)と(36a, b)における「上に」、

「に加え」は、従属節末の部分から独立させ、「その上に」、「それに加え」に書き換えて、「ただでさえ」が「のに」や「(の)だから」と共起するという典型的な用法に戻すことができる。

- (35´) a. 僕はただでさえ不愉快なのに、その上(に)、年寄にすまないという苦痛をもう一つ重ねた。
b. ただでさえ寂しい思いをしていた{のに／のだから}、その上(に)、だめ押しともいえる年賀状が来なかった新年の寂しさは、今も忘れることができない。
c. ただでさえ理科総合 A の問題を解く機会は少ないのに、そのうえに、センター試験は独特の出題形式です。
(36´) a. ただでさえ目の前の利用者さんに専念しづらい状況なのに、それに加えて、朦朧として注意散漫になっている。
b. 農家ってただでさえありえないくらいのジェネラリストなところ{なのに／なのだから}、それに加えて、それでは労働時間もすごく長くなってしまいます。
(37´) 卵はただでさえ値段が下がっているのに、売れない。

接続助詞「に加え」や「し」と共起している場合、前件と後件の間には、はっきりした逆接の関係が見られるもの(35´a)(37´)もあれば、はっきり見られない、または逆接でも順接でも両方の解釈が可能なもの(35´b, c)(36´a, b)もある。逆接や順接の問題よりも、焦点となっているのは、「現在の状態 P」から「更なる状態 Q」への増幅もしくは減幅に置かれているためだろう。

6.2 接続助詞と非共起の場合—例外のようだが例外ではない

今回の用例調査では、長文、特殊な文を含む「その他」の用法が新聞記事データベース(聞蔵Ⅱビジュアル)の中で非常に大量に観察されたが、これは田野村(2004)が指摘しているように「言語資料の性格」の問題に関わるだろう。新聞と異なって、実際の日常生活では、ほとんどの場合「ただでさえ」は「のに」や「(の)だから」と共起しているのを耳にする。以下、「従属節 — 主節」の複文の構造でもなければ、逆接の「のに」や順接の「(の)だから」などの接続助詞も現れないその他の用法の数々を詳細に見ていく。

まず、用法(1)(2)(3)に比べ、用法(4)では接続助詞との共起が見られなかった。そのため、「従属節 — 主節」の複文の構造では

ない。また、接続助詞ないしは接続の表現と共起しない代わりに、助詞が現れ、連体修飾節と後続する節や文との間の意味的対応関係がはっきりしている(例文 38-42)。

- (38) 漢の大將呂馬通は、ただでさえ長い顔を、一層長くしながら、疎な髭を撫でて、こう云った。

(芥川龍之介「英雄の器」)

- (39) 見ればミカちゃんのまつ毛もクルッとしていて、ただでさえ大きな瞳が、さらにパッチリ見えた。

(「Sound Library～世界にひとつだけの本～」第128話「紫アフロ」)

- (40) ただでさえ就職難の若者たちを窮地に追いやるだけだ。

(朝日新聞 2012.5.25、例文 29c 再掲)

- (41) ただでさえ狭き門を絞れば借り手の反発は必至だ。

(朝日新聞 2012.6.5)

- (42) ただでさえ栄養豊富な納豆に、コラーゲンが加わることで、どこまで健康的な食品になるのだろうか。

(エキサイトニュース 2005.11.28。例文 24 再掲)

上記の例文のいずれも、前件が「[ただでさえ+述語]+名詞句」(+助詞)のように連体修飾節の構造となっている。その意味的特徴を見ると、助詞を境目に、後件が現れている。例文(38)(39)では、「一層」や「さらに」などの副詞が「更なる状態」を明示的に修飾している。例文(40)(41)(42)には上記の副詞は現れないが、助詞の前後に「現在の状態P」—(増幅・減幅する)—「更なる状態Q」の意味的対応関係が観察された。特筆すべきは、例文(41)は、一見したところ、相容れない条件節の中に「ただでさえ」が入っているように見えるが、条件節では決してなく、「ただでさえ」が形容詞「狭い」を修飾し、(「狭き門」という連語になったが)「狭い」が「門」を修飾しているため、「連体修飾節」の中に入っている。例文(41)(42)を「従属節—主節」の構造に書き換えることができる。

- (41´) ただでさえ狭き門 {なのに／なのだから}、(さらに)
絞れば借り手の反発は必至だ。

- (42´) 納豆はただでさえ栄養豊富なのに、コラーゲンが加わる
ことで、どこまで健康的な食品になるのだろうか。

例文(41)が(41´)に書き換えられるように、書き言葉では、しばしば「のに」などの接続助詞から構造が変わり、複文の従属節が連

体修飾節になるという現象が見られる。構文的特徴は異なっているのだが、今まで見てきた前件の「現在の状態 P」と増幅・減幅する後件の「更なる状態 Q」という意味的対応関係は変わらない。

連体修飾節に現れる場合とは異なり、例文(43)(44)では接続助詞や助詞は観察されず、体言止めの文(例文 43)や、断定の助動詞で終わる文(例文 44)になっている。一見したところでは、単文あるいは単文の羅列に見える。しかし、こうした(擬似、見せかけの)単文と後続する文の間にも「現在の状態 P」—「更なる状態 Q」の意味的対応関係が観察される。

(43) ただでさえ美味しいパン屋さんのパン、もちろん冷めていてもおいしいが、焼きたての温かいパンの美味しさは別格だ。
(エキサイトニュース 2006. 4. 23)

(44) 頽廢の一夜が明けて、日曜日の朝が来た。ただでさえ頽廢の町である。ことに土曜日の京都は、沼の底に妖しく光る夜光虫の青白い光のような夜が、悪の華の巷にひらいて、数々のいまわしい出来事が、頽廢のメシベから放つ毒々しい花粉の色に染まる——というこの形容は誇張であろうか。
(織田作之助「土曜夫人」)

下記の例文(45)と(46)は、「現在の状態 P」—「更なる状態 Q」の意味的対応関係が観察されるものの、より複雑な構造である。読点の影響もあり、一見条件節と共起しているように見える。

(45) 「私はただでさえ何とかしなければ、彼に済まないと思ったのです。その上奥さんの調子や、お嬢さんの態度が、始終私を突っつくように刺戟するのですから、私はなお辛かったです。」
(夏目漱石「こころ」)

(46) ただでさえ日本にいれば、宇宙などから年間平均 1.48 ミリシーベルトの放射線を浴びる。世界平均は 2.4 ミリシーベルトだ。
(朝日新聞 2012.06.06、例文 25 再掲)

しかし実際には、例文(45)と(46)の「ただでさえ」は条件節とは無関係である。2 節でも触れたが、「ただでさえ」は「既定的事実」について述べるので、「仮定性」と相容れず、条件節の中には現れない。例文(45)では、「ただでさえ」は、「と思ったのです」までかかり、例文(46)では、「浴びる」までかかっている。また、注 9 でも触れたが、このように「ただでさえ」が「擬似」(見せかけ)の単文に現れる場合、関係節として埋め込み文を含んだ文である。

(45´) 私は{[[ただでさえ[何とかしなければ、彼に済まない]]と思ったのです]。その上奥さんの調子や、お嬢さんの態度が、始終私を突つつくように刺戟するのですから}、私はなお辛かったのです。

(46´) [ただでさえ[日本にいれば、宇宙などから年間平均1.48ミリシーベルトの放射線を浴びる]]。(それにもまして) 世界平均は2.4ミリシーベルトだ。

このように、単文(単文の羅列)になっていても、あるいは長文になっていても、適格な文は、「現在の状態P」の後に「更なる状態Q」(増幅もしくは減幅した更なる何か)を表す文が付随し、前件と後件との間の意味的対応関係が保たれていてこそである。

7. まとめと今後の課題

本稿では、「ただでさえ」が単に「ただ」と「さえ」が組み合わせられた語句または連語ではなく、「ただでさえ」独自の用法と意味を持つ「副詞」であるということを示してきた。「ただでさえ」の構文的・意味的特徴を分析した結果、話し言葉の場合、[[ただでさえ+述語]+逆接を表す接続の表現ノニ、(ノ)ダガ]や、[[ただでさえ+述語]+順接を表す接続の表現ノデ、(ノ)ダカラ]という従属節における典型的な用法が見られた。

それに対し、書き言葉の場合、「タメ」、「ダケニ」、「ウエ(ニ)」、「ニ加エ」、「シ」などの(話し言葉としても使用可能な)接続の表現が用いられる。そして、接続の表現が見られず、[[ただでさえ+述語]+名詞句]のように連体修飾節の中に起きる用法や、[ただでさえ+述語]が(擬似、見せかけの)単文として起こる用法が見られた。

構文的特徴が変化し振る舞いが異なっているように見えるものの、「前件(現在の状態P)－後件(更なる状態Q)」という意味的対応関係が保たれ、意味的要請が満たされていなければならない。

今後の課題は、次の通りである。

まず、本稿で使用した用例は、現代のもの(自然会話コーパス、新聞記事)もあれば、明治時代のもの(夏目漱石)もある。青空文庫用例検索を観察した限りでは、漱石の作品では「ただでさえ」がほとん

どマイナスの評価として用いられ、これは漱石だけの特徴なのか、また、「ただでさえ」が本来主にマイナスの評価に使われると規定するならば、現代になって、いつから意味が変化し、例文(24, 42)の「納豆」や(26d)の「青い鳥」、(39)の「大きな瞳」の例のように、プラスの評価にも用いられるようになったのか、検証が必要である。

次に、「ただでさえ」と非難のニュアンス(蓮沼他 2001)を帯びる「のだから」との共起は、今回コーパスおよびデータベースで確認することができたが、非難のニュアンスを帯びない「から」「ので」との共起も多く見られた。本稿(脚注 24)では「『ただでさえ…から』の用例は、『ただでさえ…のだから』から派生した用例であり、ニュアンスを和らげたものであると考えられる」とあるが、今後「のだから」と「から」「ので」の意味機能の違いにも着目する必要がある。

そして、「ただでさえ」の述語と「状態性」との深い関連が本稿の考察で明らかになったが、「(既定的)事実」との関連についてもさらに議論する必要がある。

最後に、本稿では「ただでさえ」の副詞としての意味機能を分析してきたが、果たしてどの種類の副詞のグループに属しているのか。渡辺(1980)と蓮沼(1987)で言及された、複雑な用法をもつ副詞の一群との関連について、今後考察していきたい。

< 付記 >

本稿は、2010 年 7 月 3 日に行われた 2010 年度第 5 回日本語教育学会北海道地区研究集会(於：藤女子大学)および同年 8 月 1 日に行われた ICJLE 2010 世界日本語教育大会(於：国立政治大学)、そして同年 11 月 25 日に行われた言語学ワークショップ(北海道大学・神田外語大学共催、於：北海道大学)での三つの口頭発表の内容に基づき、新たな考察を加え、まとめたものである。指導教員の上田雅信先生と飯田真紀先生をはじめ、多くの先生方にお世話になった。本稿の投稿・修正期間中、査読委員の先生方から貴重なご意見・ご指摘をいただいた。ここに記して深く感謝を申し上げる次第である。なお、

当然のことながら、本稿における不備等はすべて筆者一人の責任であり、hengli@imc.hokudai.ac.jp までご指摘くだされば幸いです。

<用例出典>

本稿で使用している用例の出典は、紙幅の関係上、各例文の後に付記する。出典が明記されていない例文は筆者による作例であり、すべて日本語ネイティブチェック済みである。日本語の校閲を快くお引き受けくださった長井裕子先生に深く感謝いたします。

参考文献

- 相葉奈穂子・佐藤琢三(2008)「多機能語「ただ」の分析」『日本語文法』8-1、東京、くろしお出版、pp. 53-67。
- 安部朋世(2003)「とりたて性からみたタダ」『鶴林紫苑 鶴見大学短期大学部国文科創立五十周年記念論集』、東京、風間書房、pp. 59-74。
- 安部朋世(2004)「単ニとタダ」『千葉大学教育学部研究紀要』52、東京、千葉大学教育学部、pp. 155-160。
- 奥津敬一郎(1974)『生成日本文法論一名詞句の構造一』、東京、大修館書店。
- 川越菜穂子(2006)「補足の接続詞とコミュニケーション上のストラテジー —ただ、ただし、もっとも、ちなみに—」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎(編)『日本語文法の新地平 3 複文・談話編』、東京、くろしお出版、pp. 155-168。
- 工藤浩(1977)「限定副詞の機能」『国語と国語史』、東京、明治書院、pp. 969-986。
- 工藤真由美(2000)『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』、東京、岩波書店。
- グループ・ジャマシイ(編)(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』、東京、くろしお出版。
- 阪田雪子(監修)・藤織枝(編集主幹)・にほんごの会(編)(2011)『新

- 訂 日本語を学ぶ人の辞典』、東京、新潮社。
- 澤田美恵子(2007)『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』
東京、くろしお出版。
- 田野村忠温(2004)「周辺性・例外性と言語資料の性格—その相関の
考察—」『日本語文法』4-2、東京、くろしお出版、pp. 24-37。
- 寺村秀夫(1981)「ムードの形式と意味(3)—取立て助詞について—」
『文芸言語研究言語篇』6、桜村、筑波大学文芸・言語学系、
pp. 53-67。
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』、東京、くろしお出
版。
- 中西久実子(1995)「モとマデとサエ・スラ」宮島達夫・仁田義雄(編)
『日本語類義表現の文法(上)単文編』、東京、くろしお出版、
pp. 306-316。
- 中西久実子(2012)『現代日本語のとりたて助詞と習得』、東京、ひつ
じ書房。
- 中畠孝幸(1995)「ダケニとダケアッテ—通念依存の形式—」宮島達
夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(下)複文・連文編』、
東京、くろしお出版、pp. 521-530。
- 西真理子(2006)「複文におけるとりたて詞の論理構造—従属節に生
起する『さえ』と『こそ』を例に—」『北海道大学留学生センタ
ー紀要』11、札幌、北海道大学留学生センター、pp. 18-33。
- 沼田善子(1986)「とりたて詞各論」奥津敬一郎・沼田善子・杉本武(編)
『いわゆる日本語助詞の研究』、東京、凡人社、pp. 107-225。
- 沼田善子(1992)『日本語文法 セルフ・マスターシリーズ 5 「も」
「まで」「さえ」など—とりたて—』、東京、くろしお出版。
- 沼田善子(2009)『現代日本語とりたて詞の研究』、東京、ひつじ書房。
- 野田春美(1995)「『のだから』の特異性」仁田義雄(編)『複文の研究
(上)』、東京、くろしお出版、pp. 221-245。
- 蓮沼昭子(1987)「副詞の語法と社会通念—『せっかく』と『さすが
に』を例として—」『言語学の視界』、東京、大学書林、pp. 203-222。

蓮沼昭子・有田節子・前田直子(2001)『日本語文法 セルフ・マスターシリーズ7 条件表現』、東京、くろしお出版。

前田直子(2009)『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』、東京、くろしお出版。

益岡隆志(1997)『新日本語文法選書2 複文』、東京、くろしお出版。

益岡隆志(2011)「原因理由を表すダケニとダケアッテの分化」『日本語・日本学研究』1、東京、東京外国語大学国際日本研究センター、pp. 1-12。

宮田幸一(1948)『日本語文法の輪郭』、東京、三省堂。

宮田幸一(1980)「格助詞と取り立て助詞」『月刊言語』9-12、東京、大修館書店、pp. 68-77。

森田良行(1989)『基礎日本語辞典』、東京、角川書店。

渡辺実(1980)「見越しの評価『せっかく』をめぐって—一国語学から言語学へ—」『月刊言語』9-2、東京、くろしお出版、pp. 32-40。

渡辺実(編)(1983)『副用語の研究』、東京、明治書院。